

富士ケミカル株式会社

Pick Up!

平成26年度

事業計画名

発泡プラスチックを用いた包装資材の製作
作用スライサー、カッターの導入

概 要

医療や電気業界では機器や部品の高精度化、短納期化が進んでおり、これらの輸送に不可欠な包装資材にも同様の要求が高まっている。専用の加工機を導入し、発泡プラスチックを用いた梱包資材の高機能化、納期短縮を目指す。

分 類

＜対象類型＞ ものづくり技術

＜事業類型＞ 設備投資のみ

成 果

医療機器用包装材の試作開発及び量産時における製品寸法精度の向上を目指した結果、当初計画した通りの成果を得ることができた。

リードタイムの短縮の目標は、内製化により短縮を図ることができた。



振動試験



落下試験機



木製梱包材製造現場

平成29年度

事業計画名

最新の加工設備導入による精密機器用の複合梱包資材の加工対応力向上

概 要

精密機器等の輸送に用いられる複合梱包資材の加工対応力強化が求められる中、最新の大型マルチカッティングマシンを導入し、梱包資材の内製化率を高め、より高度な梱包資材の提案と供給、梱包資材品質の向上を目指す。

好機逸すべからず

「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて

富士ケミカル株式会社（佐久市）

包装資材の調達・設計・加工、梱包から物流まで、環境に配慮した物流のトータルサービスを提供。

設計から物流までセットで納入

モノを輸送する際、破損や不具合から守るため、内装箱や緩衝材、外包装などには気を遣います。特に、医療機器・電子部品などの精密機器はデリケートなため、厳重な梱包が求められます。



段ボール緩衝材による包装

富士ケミカルは各種包装資材商社として、1980（昭和55）年に創業。地域産業界のニーズに応え、多種多様な包装資材を供給してきました。その後、資材の販売にとどまらず、物流サービスをトータルで提供する事業へとビジネス領域を広げています。

それを可能にしたのが独自の包装設計技術。包装設計とは、製品の形状・重量・材質・輸送条件などに合わせ、包装作業・物流効率を考慮した緩衝材を選び、最適な包装仕様の設計を行う技術です。設計のみの受注もあるほど、その技術力は高く評価されています。

物流においては、製品専用に設計された包装資材や通い箱が使われ、医療機器など厳しい精度が求められる場合には、製品ごとに複雑な形状の包装資材が必要となっています。また自動車部品など、試作品の包装資材を短納期で求められるケースも増えています。

同社が力を入れているのは、木枠を含む包装資材の調達・設計・加工、客先での梱包作業から物流までセットで納入するという提案。顧客も物流のすべてを一社に任せることで手間もコストも削減できるメリットから、依頼が増えています。

包装設計においては振動試験、落下試験を実施。



マルチカッティングマシン

さらに輸送時の状態や温湿度などを精密に計測する「輸送環境・衝撃記録計（TIVE）」の提案も行い、大手企業を含む多くの顧客から信頼されています。

最重視するテーマは「環境」



スライサー

同社は環境への配慮から、設計力を活かし、繰り返し使えるプラスチック段ボールや発泡材の使用などを提案。2006年にはサンプルカッターを導入し、外注に頼っていた強化段ボールやプラ段、発泡材などのカットを内製化、タイムリーな対応を可能にしました。「三次元CADなどの設計データでカットし、サンプル提案の時間や納期の短縮が実現しました」と小川義弘社長。

さらに平成26年度補正ものづくり補助金により、バーチカルカッター、スライサーを導入。包装資材の設計・試作の納期短縮、小ロットの特急品の加工などに活用し、売上げ向上につなげています。

「長野県SDGs推進企業」に登録するなど、環境への取り組みを積極的に推進する同社。「環境」は今後の取り組みとして最重視するテーマです。

小川社長は「マイクロプラスチックの問題もあり、発泡材から段ボールの緩衝材への切り替えをどんどん提案しています。設計力の強みを活かし、先取りして提案することで売上げを上げていきたい」と力を込めます。



バーチカルカッター



富士ケミカル株式会社

代表 代表取締役社長 小川 義弘
創業 1980（昭和55）年4月
資本金 2,500万円
従業員数 28名
本社 佐久市長土呂64-32



TEL.0267-68-7215 FAX.0267-68-7218
事業内容 梱包資材の販売及び開発、梱包作業代行
<http://f-chemical.co.jp>